

香川県教育委員会事務局  
保 健 体 育 課 長 殿

学 校 名 香 川 県 立 盲 学 校  
学 校 長 名 田 中 豊

## 令和 2 年度 オリンピック・パラリンピック教育実施報告書

### I 事業実施前の課題

- ・ 用具が十分にそろっていないこともあり、パラリンピックに採択されている種目への取り組みを充実させることが難しかった。

### II 具体的な取組み

#### 1 活動名 (事前学習) : ゴールボールの概要とゴールボールコート作成

(1) 日 時 : 令和 2 年 8 月 2 5 日 (火) 1 0 : 4 5 ~ 1 1 : 3 5

(2) 対象者 : 普通科 A 組 第 2 ・ 3 学 年 3 名、保健医療科 第 2 学 年 1 名

(3) 活動概要及び工夫点 (体育の時間で実施)

- ・ ゴールボールの授業の開始にあたって、「ゴールボールとパラリンピックについて」、「ゴールボールの歴史」、「ゴールボールの概要」について説明を行なった後、生徒自身がゴールボールのコートの作成を行なった。
- ・ 従来は体育科教員でコートを作成し授業を開始するが、パラスポーツを支えるために行われていることを体験するために生徒自身でコートの作成に取り組むように工夫した。

(4) 活動の様子



【ゴールボールのコート作成しているところ】

## 2 活動名（中心学習）：体育の授業においてゴールボールに取り組む

- (1) 日時：令和2年8月～12月 小学部6年A組 水曜日 9：45～10：30  
高等部普通科A組・保健医療科 火曜日 10：45～11：35  
高等部保健医療科・専攻科理療科 木曜日 14：25～15：15

- (2) 対象者：小学部A組第6学年1名、  
高等部A組普通科第2・3学年3名、保健医療科第2学年1名  
専攻科理療科第1・2学年3名

### (3) 活動概要及び工夫点（体育の時間で実施）

- ・ 小学部から高等部専攻科理療科までの3グループの授業においてゴールボールを単元として設定して取り組んだ。
- ・ 年齢や発達段階に応じて基本技術の練習を重点的に行うグループと、ゲームを中心に行いながら技術を習得していくグループに指導方法を工夫して実施した。
- ・ 視覚情報以外の情報の活用について理解し実践できるように、運動のフィードバックやゲーム状態の説明を細かく行うように配慮した。

### (4) 活動の様子



【授業でゴールボールをしているところ】

## 3 活動名（事後学習）：体育の授業においてゴールボールの振り返りとボール遊びに取り組む

- (1) 日時：①令和2年12月15日（火）10：45～11：35  
②令和2年12月18日（金）13：25～14：10

- (2) 対象者：①高等部普通科A組第2・3学年3名、高等部保健医療科第2学年1名  
②高等部普通科A組第2・3学年3名、小学部B組第3・4学年2名

### (3) 活動概要及び工夫点（体育の時間で実施）

- ・ I'm POSSIBLE を活用してゴールボールやパラリンピックについて復習するとともに、学んだことを基に小学部の重複児童と一緒にゴールボールのボールの扱いを教える活動を行った。
- ・ 実際にゲームをしている選手以外の人たちが行っている配慮がなぜ必要なのかを、ゴールボールに取り組んだことを基に推測できるように配慮した。
- ・ 小学部の児童がキャッチボールをする場面では、きちんと声を出して方向や投げ出しのタイミングがわかりやすいように配慮して行った。



#### (4) 活動の様子



【ゲーム中の配慮について復習しているところ】【重複障害児童とボール遊びをしているところ】

### Ⅲ 成果と課題

- 幅の広い年代の児童生徒がゴールボールに対して積極的に取り組むようになった。
- 音源定位や触知によるポジションの定位など、ブラインドプレイヤーとして必要な力を高めることができた。
- △ ゴールボール用のゴールを準備することができなかったために、本来のゴールボールの動きをすることができず、効率の悪い動きをしなければならなかった。
- △ 盲学校以外の児童生徒とゴールボールを行って交流する機会を作ることができなかった。今後、ゴールボールによる交流ができる機会を作れるようにしていきたい。